三沢寺小路遺跡６

－福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第263集

２０１２

小郡市教育委員会

三沢寺小路遺跡６

－福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第263集

２０１２

小郡市教育委員会

＜序　文＞

本書は、小郡市三沢において計画されました宅地造成工事に先立ち、小郡市教育委員会が実施いたしました三沢寺小路遺跡6の発掘調査の記録です。

調査地は、小郡市のほぼ中央を南北に貫流する宝満川の西側、小郡市三沢地内に所在します。

三沢寺小路遺跡は、中世に繰り広げられた大保原合戦の戦没者を弔ったとされる善風寺跡と考えられています。周辺には延喜式内社である御勢大霊石神社、五輪塔や青銅製の懸仏が出土した大保西小路遺跡、溝で区画された屋敷地が発見された大保横枕遺跡2などが存在し、古くから地域の中心として栄えてきました。

本書に記録しました三沢寺小路遺跡6におきましては、中世の井戸や区画溝が多くの遺物と共に確認され、周辺には溝に区画されるような土地が存在していた事が想定されます。

このように埋蔵文化財は、地域の歴史を明らかにする上で欠かす事の出来ない貴重な文化遺産です。本書が文化財に対するご理解、更には教育及び学術研究の一助となれば幸いです。

最後に、地権者の藤田恵美子さん、さらには調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 24 年 3 月 31 日

小郡市教育委員会
教育長　清武 輝

＜例　言＞

1. 本書は、小郡市大保地内における宅地造成工事に伴い、小郡市教育委員会が発掘調査を行った三沢寺小路遺跡6の報告書である。
2. 調査期間は、平成 22 年 11 月 12 日から同年 12 月 18 日まで実施した。
3. 調査面積は、225 ㎡である。
4. 本調査は、坂井貴志が行った。
5. 遺構の個別実測は坂井が行い、一部を阿南翔悟（福岡大学人文学部）が行った。
6. 遺構の個別写真撮影は坂井が行い、遺跡全景写真は（有）空中写真企画に委託した。
   遺物写真の撮影は㈲文化財写真工房・岡紀久雄氏に委託した。
7. 遺物の復元・実測・製図には、担当者の他、阿南翔悟、柳美保幸、衛藤知嘉子、佐々木智子、原野照子、井上千代美、長野智恵子ら諸氏の多大なる協力を得た。
8. 遺構実測図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
9. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管・管理している。
10. 本書の執筆・編集は、坂井が行った。

＜本文目次＞

第１章　調査の経過と組織 …… 1
第２章　位置と環境 …… 1
第３章　調査の内容
　　1　調査の概要 …… 5
　　2　遺構と遺物
　　(1) 溝 …… 5
　　(2) 土坑 …… 13
　　(3) 井戸 …… 13
　　(4) その他の遺物 …… 19
第４章　調査の成果 …… 21

＜挿図・表目次＞

第1図　三沢寺小路遺跡６周辺遺跡分布図（S ＝ 1/25,000） …… 2
第2図　三沢寺小路遺跡６調査区位置図（S=1/2,500） …… 2
第3図　三沢寺小路遺跡６遺構配置図（S=1/100） …… 3･4
第4図　1号溝実測図（S=1/40） …… 6
第5図　2・3・4号溝実測図（S=1/40） …… 8
第6図　1 ～ 4 号溝出土遺物実測図（S ＝ 1/4） …… 9
第7図　5号溝実測図（S=1/40） …… 10
第8図　5号溝出土遺物実測図（S=1/4、1/6） …… 11
第9図　6・7号溝実測図（S=1/40） …… 12
第 10 図　6・7号溝出土遺物実測図（S=1/4） …… 13
第 11 図　1号土坑実測図（S=1/40） …… 14
第 12 図　1号土坑出土遺物実測図（S=1/40） …… 15
第 13 図　1号井戸実測図（S=1/40） …… 16
第 14 図　2号井戸実測図（S=1/40） …… 17
第 15 図　1・2号井戸出土遺物実測図（S=1/4） …… 18
第 16 図　2号井戸下層出土遺物実測図（S=1/4） …… 19
第 17 図　出土瓦実測図（S＝ 1/4） …… 20
第 18 図　出土鉄製品実測図（S＝ 1/2） …… 21
第1・2表　出土遺物観察表 …… 21･22

＜図版目次＞

図版1　調査区より南を望む、三沢寺小路遺跡6調査区全景
図版2　1 号土坑・1 ～ 2 号井戸土層・完掘、1 号溝土層
図版3　1 号溝完掘・2 ～ 4 号溝土層・完掘
図版4　5 ～ 6 号溝土層・完掘、7 号溝完掘
図版5　出土遺物
図版6　出土遺物
図版7　出土遺物

第１章　調査の経過と組織

三沢寺小路遺跡6の調査は、宅地造成工事に先立ち、平成 18 年 7 月 14 日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の照会があったことを端緒とする（審査番号 0272）。東隣接地ではこれまで、平成 16 年度および 18 年度に東野校区公民館建設工事に伴う発掘調査（『三沢寺小路遺跡 3・5』市報第 222 集）が実施されており、当地に関しても遺跡が存在する事は明白であった。

小郡市教育委員会では、平成 18 年 7 月 21 日に申請地の試掘調査を実施し、その結果中世の溝等を確認した。その後、地権者側との協議を行い、造成計画のうち道路部分の箇所について発掘調査を実施することとなり、平成 22 年 10 月 27 日付で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

調査組織

〔平成 22 年度〕
小郡市教育委員会

教 育 長	清武　輝
教育部長	河原　寿一郎
文化財課　課長	田篭　千代太
係　長	片岡　宏二
嘱託技師	坂井　貴志

〔平成 23 年度〕
小郡市教育委員会

教 育 長	清武　輝
教育部長	吉浦　大志博
文化財課　課長	片岡　宏二
係　長	柏原　孝俊
嘱託技師	坂井　貴志

＜発掘作業従事者＞

阿南翔悟、横田雅江、藤田ツヤ子、西初代、西島勝徳、小屋野長利、田中正登

第２章　位置と環境

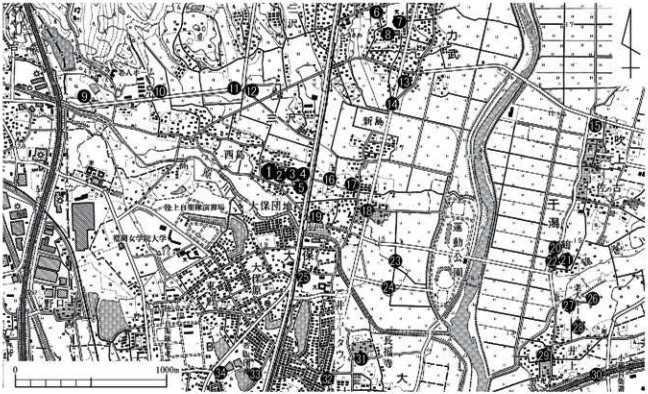
三沢寺小路遺跡6は、小郡市の中央を南流する宝満川の右岸、三国丘陵から南東に派生する低台地の縁辺部、標高 21.50 m付近に立地する。

本調査地周辺は、中世南北朝の争乱である大保原合戦が正平 14（1359）年、菊地氏を侍大将とした征西将軍懐良親王率いる征西府軍と少弐頼尚軍により繰り広げられた地として知られており、またこの様子が南北朝の乱世を描いた文学作品である『太平記』や大保原合戦の数少ない直接資料である筑後木屋文書『木屋行実軍忠状』などに記され、合戦の激しさを現在に伝えている。本調査地及び東側は、合戦の後に両軍の戦死者を弔うために建立されたと伝承される「善風寺」（善福寺）の想定地である。

しかし、近年まで発掘調査は行われておらず様相を把握する事が出来ていなかったが、平成7年に**三沢寺小路遺跡（4）**として発掘調査が行われ、中世のものと思われる土坑墓が確認されたほか、隣接する大保地区においても**大保西小路遺跡（19）**、**大保龍頭遺跡（18）**、**大保横枕遺跡2（23）**などで区画溝で囲繞された屋敷地・掘立柱建物や井戸・土坑墓・溝等多くの遺構が確認されるなど、当地城の中世の様相が徐々に明らかとなってきている。本調査においても、中世の溝が多数確認されており、善風寺との関係が窺える。

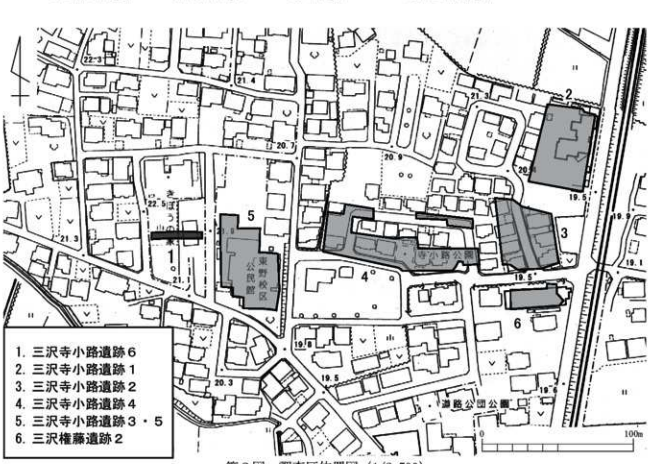
また、調査地より約 700 m南東に位置する大原小学校校庭には、**善風塚（24）**と呼ばれる塚が存在し、合戦両軍の将士の墳墓と考えられている。

このように、本調査地周辺は、中世の遺跡が数多く残る地域として注目されている。

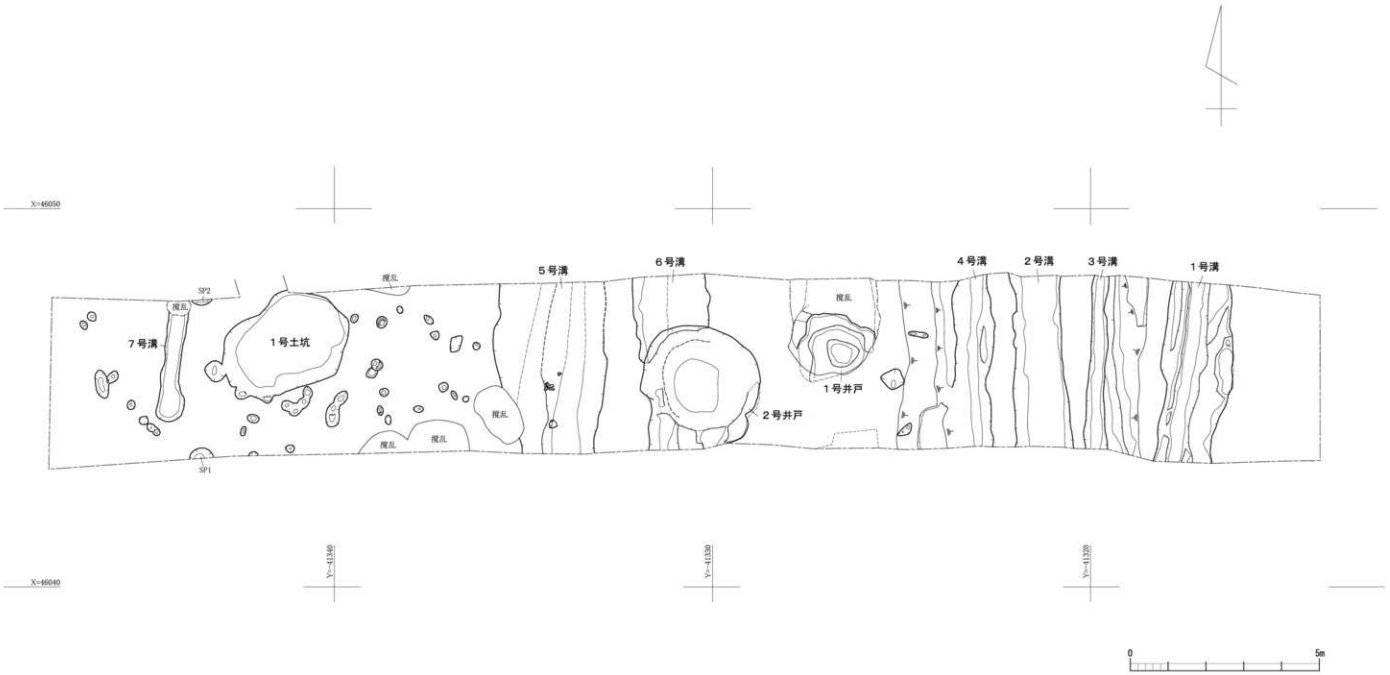


第１図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

1. 三沢寺小路遺跡６
2. 三沢寺小路遺跡３・５
3. 三沢寺小路遺跡２・４
4. 三沢寺小路遺跡
5. 三沢権藤遺跡２
6. 三沢古賀遺跡
7. 三国小学校遺跡
8. みくに保育所内遺跡
9. 西島遺跡５
10. 西島遺跡
11. 西島下庄原遺跡
12. 三沢運輸遺跡
13. 力武前畑遺跡
14. 力武内畑遺跡
15. 吹上北品井遺跡
16. 三沢権藤遺跡
17. 大保谷々遺跡
18. 大保前頃遺跡
19. 大保西小路遺跡
20. 吹上二ツ塚遺跡２
21. 下鶴遺跡
22. 吹上二ツ塚遺跡
23. 大保横枕遺跡２
24. 大保横枕遺跡
25. 御風塚
26. 井上小松山遺跡３
27. 井上北内原遺跡
28. 井上南内原遺跡
29. 井上廃寺
30. 井上薬師堂遺跡
31. 大板井遺跡12
32. 大板井遺跡
33. 小都若山遺跡
34. 小都中尾遺跡



第２図　調査区位置図（1/2,500）



第3図　三沢寺小路遺跡6　遺構配置図（S＝1／100）

第３章　調査の内容

１．　調査の概要

三沢寺小路遺跡6の調査面積は、225 ㎡である。住宅地であったため全体的に削平を受けている上、既存建物の基礎カクランがかなり入る状況であった。

遺構検出面は、地表面下 30 ～ 50cm の茶褐色ロームまたは明黄褐色ロームの地山である。全体的に削平を受けているため、造成土の直下が遺構面となっている。標高は 21.00 ～ 21.50 mを測り、現況地形通りに若干ながら南へと下っていく。

検出した遺構は、溝7条、土坑1基、井戸2基、ピット数基である。

遺物は、中世の土師器・陶磁器が大量に出土した他、瓦も出土している。

２．　遺構と遺物

（1）溝

1号溝（第４図、図版2・3）

1号溝は、調査区東端にて検出された。検出した長さ 4.7 m、幅 1.4 ～ 1.9 m、深さ 45 ～ 69cm を測る。溝底は平坦で、緩やかに南流する。

出土遺物（第６図、図版7）

1・2 は土師器坏と皿である。いずれも底部外面は回転糸切り後板状圧痕が見られる。3 は陶器の擂鉢である。内面には工具による 8 本を1単位とした擂目が体部下位より刻まれる。4 は石鍋である。滑石製で、復元口径 18.4cm を測る。内外面ともノミ状工具で平滑に仕上げられる。口縁は斜め上方に立ち上がり、断面三角形の小さく退化したような鍔が巡る。また外面はススが著しく付着する。

これらの遺物から、14 世紀中頃の溝であると考えられる。

2号溝（第５図、図版3）

調査区東部にて検出された。3・4号溝と共に上面を大きく建物の造成による削平を受けるため、本来の深さ・幅等は不明である。検出した長さ 4.5 m、幅 1.2 ～ 1.75 m、深さ 53 ～ 65cm を測る。断面形は、逆台形である。溝底は叩き締めている様に平坦、且つ水平である。

出土遺物（第６図、図版7）

第６図 5･6 は瓦質土器である。5 は湯釜、6 は火鉢である。7 は龍泉窯系青磁の椀である。全面施釉後、高台内の釉を環状に剥ぎ取っている。8 は流紋斑岩製の砥石である。砥面は4面残存する。

これらの遺物から、14 世紀前～中頃の溝であると考えられる。

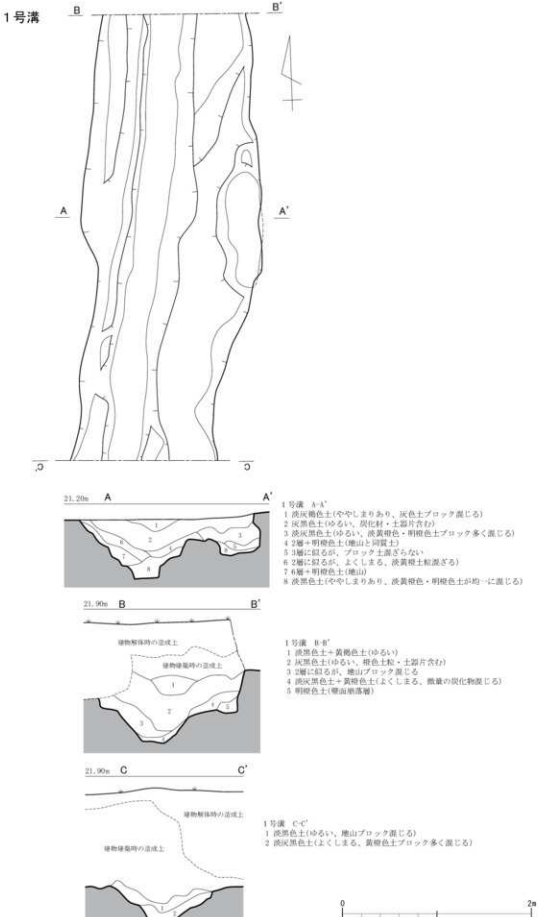
3号溝（第５図、図版3）

調査区東部にて検出された。2・4号溝と共に上面を大きく建物の造成による削平を受けるため、本来の深さ・幅等は不明である。検出した長さ 4.6 m、幅 32 ～ 58cm、深さ 33 ～ 46cm と細く浅い。断面形は逆台形である。溝底は平坦である。

出土遺物（第６図）

第６図９は土師器皿底部である。底部は回転糸切りされる。10 は龍泉窯系青磁碗底部片である。やや水色がかった釉で全面施釉後、見込みを蛇の目に釉剥ぎする。11 は、陶器鉢か。褐釉の上から濁白色の釉が掛けられている。

これらの遺物から、14 世紀初頭頃の遺物と考えられる。



第４図　１号溝実測図　（Ｓ＝１／40）

4号溝（第5図、図版3）

調査区東部にて検出された。2・3号溝と共に上面を大きく建物の造成による削平を受けるため、本来の深さ・幅等は不明である。検出した長さ4.3 m、幅0.82 ～ 1.04 m、深さ22 ～ 41cmを測る。断面形は緩やかなU字状を成す。溝底はほぼ平坦であるが、若干西寄りに傾斜している。

出土遺物（第6図）

第6図12は瓦質土器の鉢である。内外面ともハケ調整が施される。13・14は土師器である。13は土鍋である。14は坏で、復元口径10cm、器高3.1cm、底径4.7cmを測る。

これらの遺物から、14世紀前半～中頃にかけての溝だと考えられる。

5号溝（第7図、図版4）

調査区中央部にて検出された。検出した長さ4.5 m、幅1.9 ～ 2.9 m、深さ50 ～ 108cmを測る。遺構北半部においては、明確な遺構ラインは確認できていない。南・北両壁面の土層によると、南に向かってやや床面標高が上がっているようである。また、検出・掘削時には判別できなかったが、掘り直しが行われていたことが判った。

遺物は土師器を中心に、瓦質土器・磁器・瓦など大量に出土した。

出土遺物（第8図、図版5・6）

第8図1 ～ 3は土師器坏・皿である。4は陶器碗である。内外とも灰釉がかかる。5は龍泉窯系青磁の碗である。茶色がかった緑色釉が均一にかけられる。復元口径16.6cmを測る。体部外面には、鎬蓮弁文を有する。6は、瓦質土器の蓋である。復元最大径15.4cm、受部径12.1cmを測る。7の湯釜とセットになるものか。7は湯釜である。丁寧な回転ナデで、外面は口縁直下に沈線・菊花文スタンプが巡る。羽以下にはススがこってりと付着する。また、底部外面には「大」字が陽刻スタンプされる。8は東播系須恵器のこね鉢、9は瓦質土器の擂鉢である。10 ～ 12は土師器の土鍋である。11は復元口径43.4cm、12は47.8cmを測る。どちらも底部内面付近の器壁は、使用のため摩滅している。

これらの遺物から、13世紀後半～ 14世紀前半頃の溝だと考えられる。

6号溝（第9図、図版4）

6号溝は、調査区中央部にて検出された。2号井戸に切られる。検出した長さ4.5 m、幅1.9 ～ 2.0 m、深さ55 ～ 95 mを測る。断面形は緩やかなU字状を呈す。溝底は西に向けて傾斜する。

出土遺物（第10図、図版7）

第10図1・2は土師器皿・坏である。底部は回転糸切りされる。3は瓦質土器の湯釜である。内外面ともハケで調整される。4は焙烙の把手部分である。残存長8.5cm、径3.0 ～ 3.7cmを測る。

これらの遺物から、13世紀後半～ 14世紀初頭にかけての溝だと考えられる。

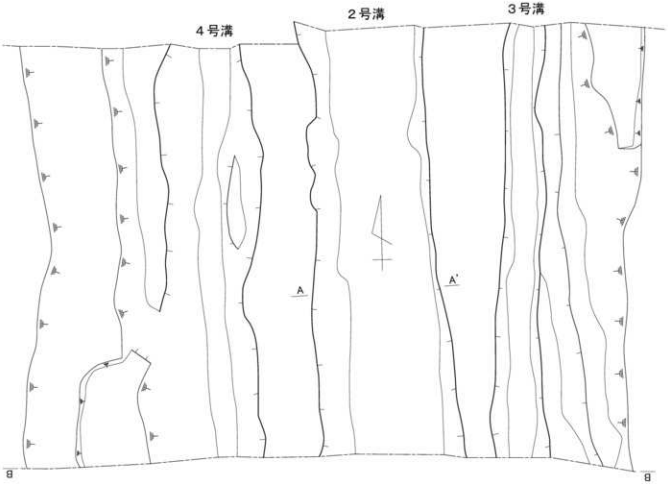
7号溝（第9図、図版4）

調査区東部にて検出された。検出した長さ6.2 m、幅1.0 ～ 1.38 m、深さ25 ～ 31 mを測る。断面形は逆台形を呈す。溝底は平坦である。

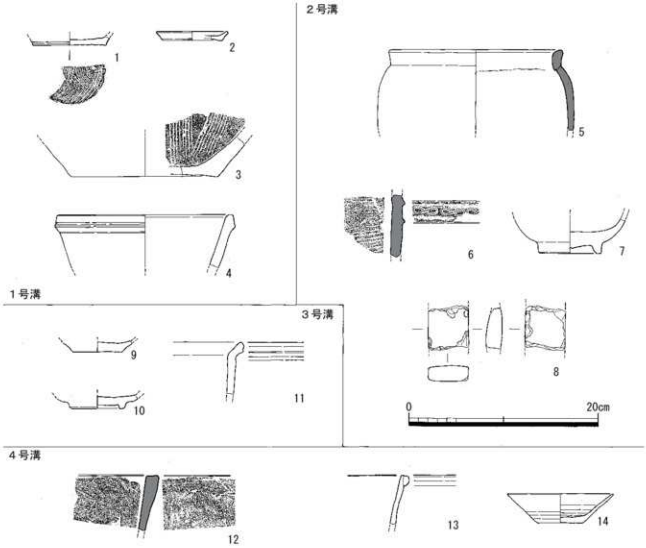
出土遺物（第10図）

第10図5は土師器皿である。復元口径8.0cm、底径5.0、器高1.9cmを測る。6は陶器鉢か。橙褐色の胎土に緑褐釉がかかる。

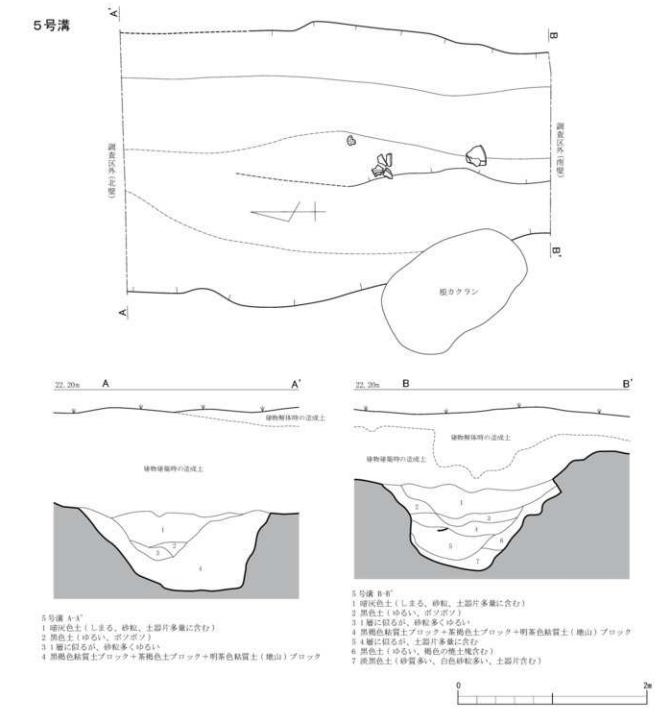
これらの遺物から14世紀後半頃の溝と考えられる。



第5図　2・3・4号溝実測図　(S＝1／40)



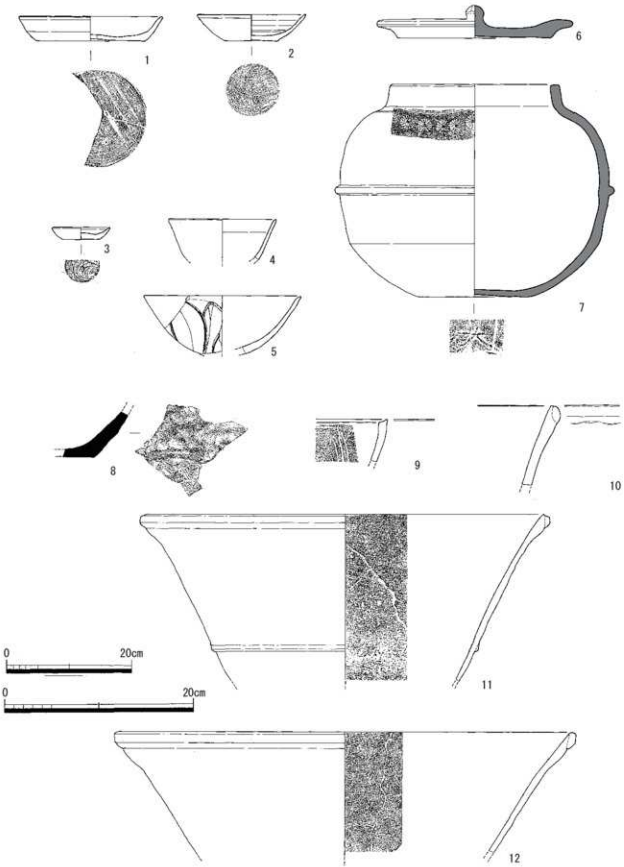
第６図　１～４号溝出土遺物実測図　（S＝１／４）



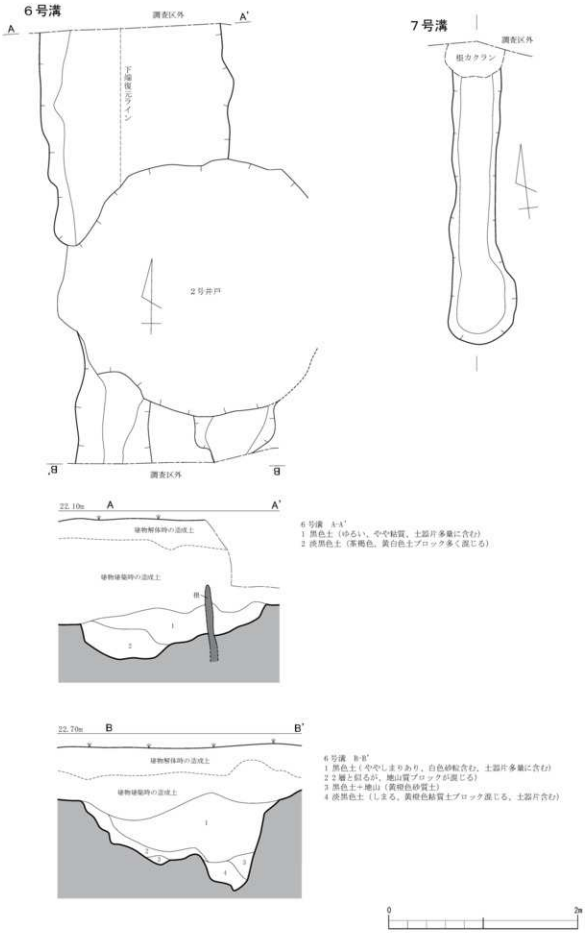
5号溝 A-A'
1 暗灰色土（しまる、砂粒、土器片多量に含む）
2 黒色土（ゆるい、ボソボソ）
3 1層に似るが、砂粒多くゆるい
4 黒褐色粘質土ブロック＋茶褐色土ブロック＋明茶色粘質土（地山）ブロック

5号溝 B-B'
1 暗灰色土（しまる、砂粒、土器片多量に含む）
2 黒色土（ゆるい、ボソボソ）
3 1層に似るが、砂粒多くゆるい
4 黒褐色粘質土ブロック＋茶褐色土ブロック＋明茶色粘質土（地山）ブロック
5 4層に似るが、土器片多量に含む
6 黒色土（ゆるい、褐色の焼土塊含む）
7 淡黒色土（砂質多い、白色砂粒多い、土器片含む）

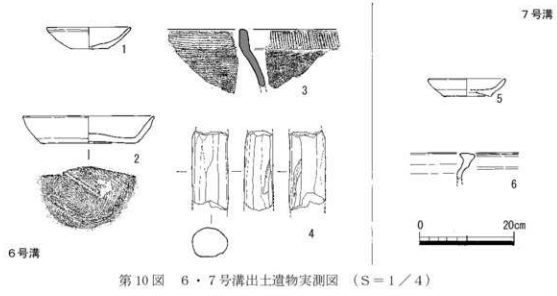
第７図　５号溝実測図　（Ｓ＝１／40）



第８図　５号溝出土遺物実測図　（Ｓ＝１／４,６・７はＳ＝１／６）



第８図　６・７号溝実測図　（S＝１／40）



第10図　6・7号溝出土遺物実測図　（S＝1／4）

（2）土坑

1号土坑（第11図、図版2）

1号土坑は、調査区西部に位置する。平面形は東西に長い楕円形を呈し、長径3.55m、短径2.3mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さ1.2mを測る。埋土は上層が均一な黒色土、下層は黒色土層と焼土・灰層の互層となっている。

遺物は、下層である第3層からの出土が多く、中には鉄製品や多くの焼土塊とともに七輪の火皿（さな）の出土もあった。

出土遺物（第12図、図版6）

第12図1・2は、土師器皿である。底部は回転糸切りされる。3は東播系須恵器の片口こね鉢である。底部内面付近は使用のためか器壁が荒れる。復元口径24.6cmを測る。4は七輪の火皿で、当土坑より大量に出土した焼土塊中より接合できたものである。現状19×21cm程を測り、一辺が22～24cm程の隅丸方形状に復元できるものと思われる。胎土は、φ1～2㎜の砂粒とスサのほか、大量の籾殻痕も数多く確認できる。また残存範囲で径2.5cm程の、指で開けられた孔が5ヶ所に見られ、復元すると凡そ8～9箇所の穿孔が行われていたと思われる。厚さは1.9cm程度を測り、両面とも被熱による赤変・剥落が著しいが、表面はナデの痕跡が一部確認できる。

これらの遺物から、13世紀後半～14世紀前半頃の土坑と考えられる。

（3）井戸

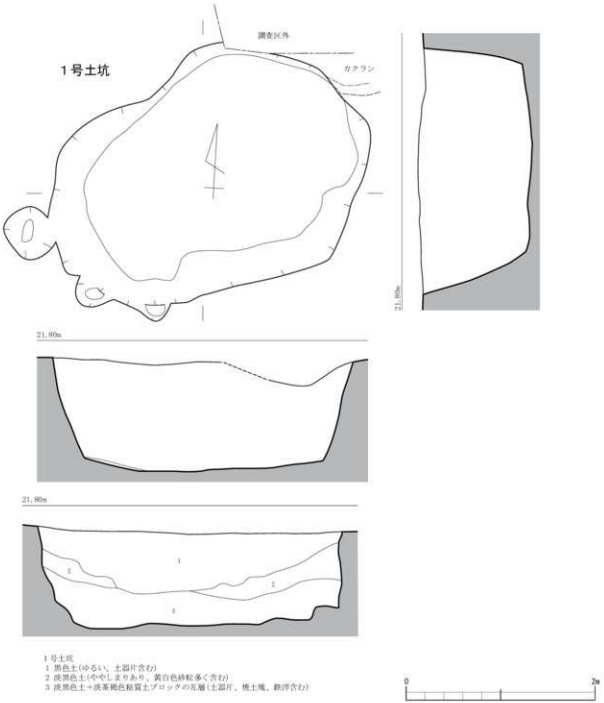
1号井戸（第13図、図版2）

1号井戸は、調査区の中央部にて検出された。既存建物の基礎による削平で、本来の掘方は残されておらず歪な形状である。検出径約2m、底面までの深さは最大で1.4mを測る。壁面は、帯水によって崩落しており本来の形状ではない。井戸枠は確認できず、素掘りの井戸であると思われる。

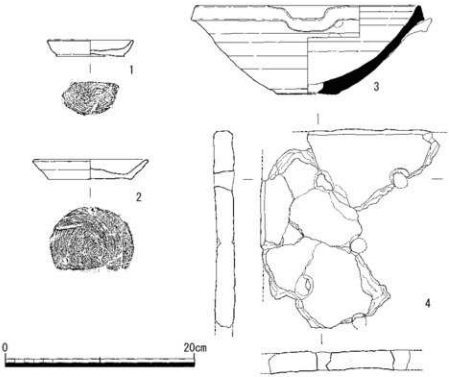
出土遺物（第15図、図版5）

第15図1は土師器土鍋である。内面はハケで調整される。外面にはススの付着が見られる。2は、龍泉窯系青磁の坏である。復元口径12.1cmを測る。翡翠色の釉が均一にかけられており、体部は丸みを持ちながら立ち上がり口縁は屈曲し、口縁上面は凹んでいる。

これらの遺物から、13世紀中頃の井戸だと考えられる。



第11図　1号土坑実測図　（S＝1／40）



第12図　1号土坑出土遺物実測図　（S＝1／40）

2号井戸（第14図、図版2）

2号井戸は、調査区中央部にて6号溝を切るように検出された。掘方の形状は楕円形を呈し、検出面での径は3.1～3.5m、底面までの深さは最大で2.2mを測る。砂層まで掘り込まれており、現状も湧水が著しい。井戸枠は確認できず、素掘りの井戸であると思われる。

遺物は、上・下層ともに土師器を中心として青磁・瓦などが大量に出土した。

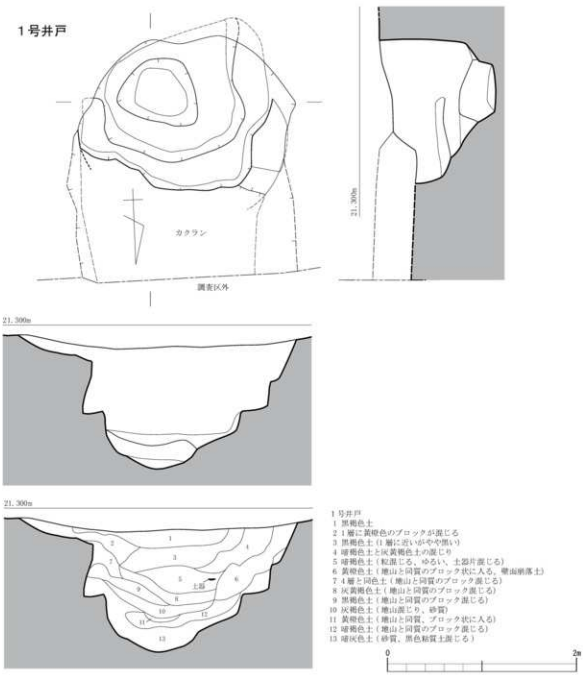
上層出土遺物（第15図、図版5～7）

第15図3～20は土師器である。3・4は土鍋である。3は復元口径34.6cm、4は37.0を測る。5～12は皿、13～20は坏である。いずれも底部は回転糸切りである。21は復元口径12.0cmを測る龍泉窯系青磁の小碗である。かすんだ緑色釉で施釉される。22～24は陶器瓶である。22は暗褐色の胎土に緑褐釉、23は褐釉、24は灰白色の自然釉がかかる。25は手捏ねの壺か。内面にはナデ痕が明瞭に残る。

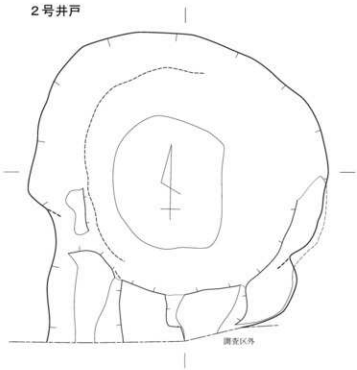
下層出土遺物（第16図、図版5）

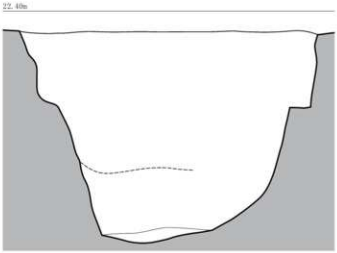
第16図1～5は土師器坏である。いずれも底部は回転糸切りである。4は破片資料である。柔らかい状態で歪んでしまったのであろうが、そのまま焼成している。意図的なものであろうか。類例として福岡市博多遺跡群において、作り損ねの土師器皿の出土例が何例かあるようである。6は、東播系須恵器のこね鉢である。復元口径15.6cmを測る。底部内面付近は使用のためか器壁が荒れている。

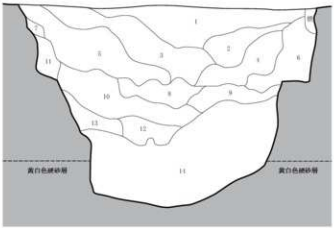
これらの遺物から、14世紀前半～中頃にかけての井戸だと考えられる。



第 13 図　1 号井戸実測図　（S＝1／40）



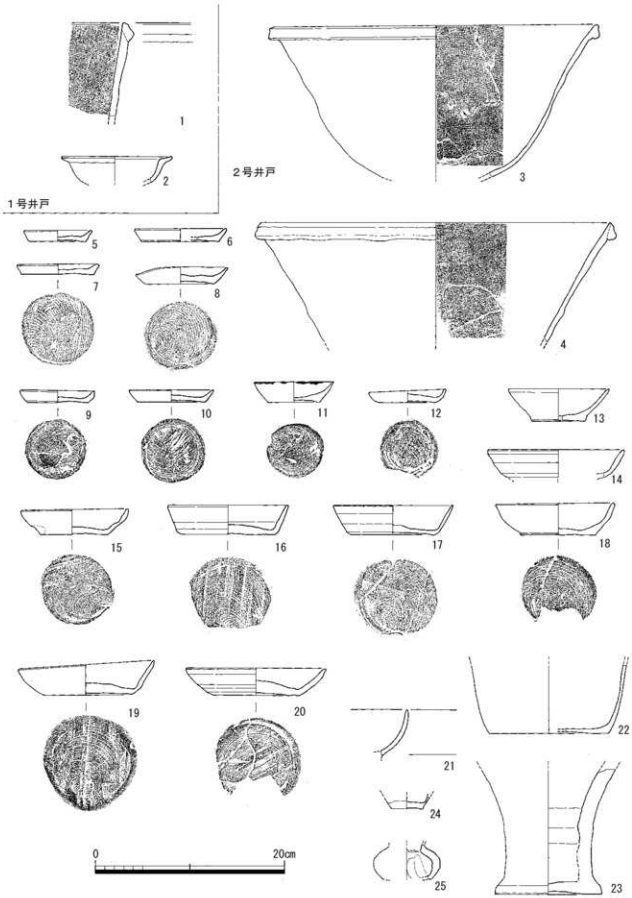




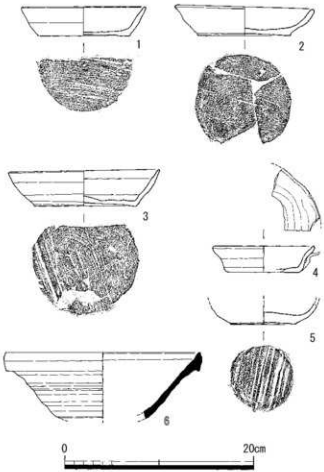
2号井戸
1 淡黒色土(しまりあり、白色砂粒多量に混じる。土器片・礫を中量含む)
2 灰黒色土(ゆるい、ボソボソとする)
3 1層に似るが、橙色土粒、土器片含む)
4 黒色土(ややしまり、淡橙色土ブロック混じる)
5 淡黒色土(しまり強い、地山質の砂質土混じる)
6 黄橙色土ブロック+淡茶橙色土(礫由崩落層)
7 5層に似るが、より地山質土含む
8 淡黒色土(ゆるい、地山質ブロック多く含む)
9 黒色土(やや粘性あり、淡橙色土ブロック混じる)
10 淡黒色土(8層に似るが、より多くの地山質土混じる)
11 明橙色土ブロック+黒色土(礫崩崩落層)
12 黒色粘質土(ゆるい、土器片・橙色土粒多く含む)
13 淡黒色土(ややしまりあり、砂質土含みザラザラ)
14 黒色粘質土+黄橙色・明橙色土ブロックの互層
地山:黄橙色～明橙色砂質土(砂質多い)

0 2m

第14図　2号井戸実測図　(S＝1／40)



第15図　1・2号井戸出土遺物実測図　（S＝1／4）



第 16 図　2 号井戸下層出土遺物実測図　（S＝1／4）

（4）その他の遺物

ここでは、先述してきた遺構から出土した瓦、鉄器について紹介していく。

瓦（第 17 図、図版7）

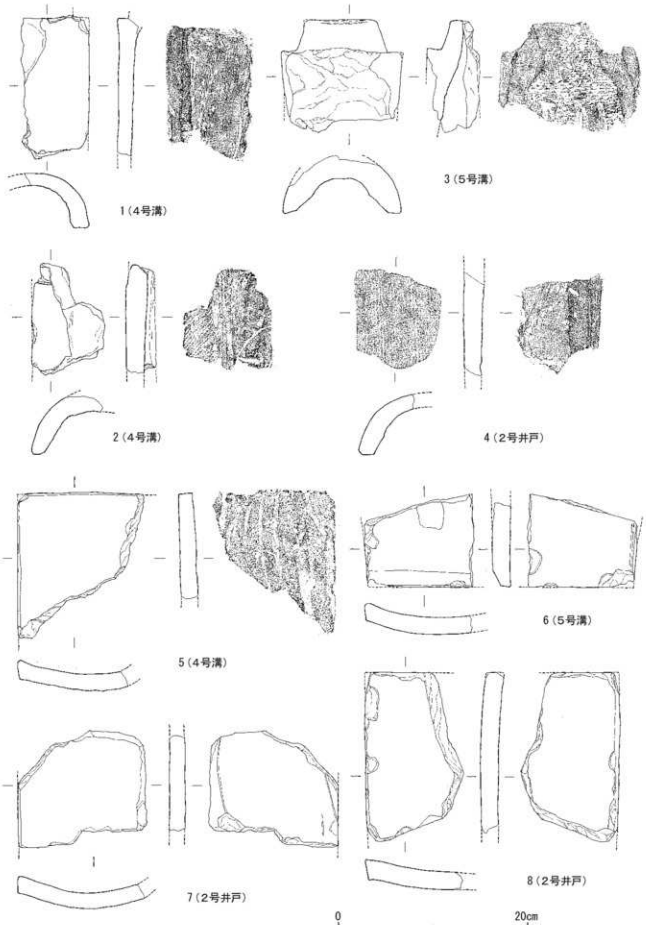
出土した瓦は、その殆どが灰色～灰白色を呈すが、一部に赤～黄橙色を呈すものが見られた。また、破断面にまで二次的焼成痕が見られるものもあり、この地が善風寺想定地とされることから、非常に興味深い遺物である。

第 17 図 1 ～ 4 は丸瓦である。1・2 は4号溝、3 は5号溝、4 は2号井戸から出土したものである。いずれも凹面には布目が確認でき、中には紐痕が見られるものもある。凸面はタタキ調整で、その後ナデ消している。

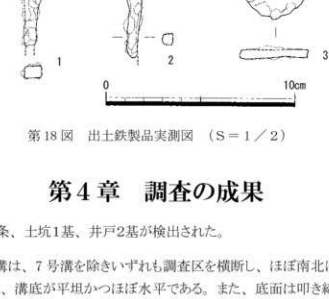
5 ～ 8 は平瓦である。5 は 4 号溝、6 は 5 号溝、7・8 は2号井戸から出土したものである。いずれも凹凸面とも工具によるナデ調整を施す。7・8 においては、凹面から破断面にかけて被熱し、ススの付着も見られる。

鉄器（第 18 図、図版7）

いずれも2号井戸から出土したものである。1・2 は鉄釘である。1 は先端部を欠いている。断面はやや長方形を呈すが鍛造釘であろう。残存長は 5.5cm を測る。2 も先端部を欠く。断面方形の鍛造釘で、残存長 5.35cm である。3 は不明鉄器である。直線的な部分があり、厚みもないため刃器の一部ではないかと思われる。



第 17 図　出土瓦実測図　（S＝1／4）



第18図　出土鉄製品実測図　（S＝1／2）

第4章　調査の成果

今回の調査では、溝7条、土坑1基、井戸2基が検出された。

・溝　7条検出された溝は、7号溝を除きいずれも調査区を横断し、ほぼ南北に方位をとる直線的な溝である。中でも2号溝は、溝底が平坦かつほぼ水平である。また、底面は叩き締められたようになっており、かなり意識して掘削された溝であることが看取される。

出土遺物から見ると、13世紀後半～14世紀後半と幅広く出土するが、概ね「大原合戦」の起こった頃と一致しており、善風寺との関連を考えるうえで非常に興味深い。

・土坑　1基の土坑が検出された。上層は黒色のいわゆる黒ボク土で占められており、遺物も土師器細片が流れ込んでいる状況である。下層は焼土・灰層と黒色土層の互層となっている。遺物は大半が焼土・灰層から出土し鉄滓や焼土塊の他、七輪の火皿が出土した。また、炭化した木材片も出土することから、日常生活に伴う廃棄土坑であると思われる。出土した遺物から見て、13世紀後半～14世紀前半の所産であると思われる。

・井戸　調査区中央に2基並ぶように検出された。いずれも円形・素掘りの井戸で、湧水層まで掘り込まれており現状も湧水が著しい。遺物は上層に集中して見られ、下層が壁面の崩落や流れ込みで埋没した後、廃棄を行ったものと解釈できよう。

今回の調査は幅の狭いトレンチ状の調査区であり、特に溝についてはその性格を判断する事は困難である。しかし、先述のとおり当遺跡周辺は大原合戦での戦死者を集めて葬り「善風寺」を建てて供養したと伝承される土地である。寺院敷地に伴う区画溝であるのか否か、今後の調査で確認されることを期待したい。

第1表　出土瓦・鉄製品観察表

出土遺構	掲図番号	図版番号	種類	器種	法量(cm)	色調	胎土	焼成	成形・調整		備考
4号溝	17-1	7	瓦	丸瓦	厚さ:1.9 高さ:5.7	灰白色	φ～3mmの少砂含む	硬質	凸面:ヨヲキ後ヨコナデ 凹面:布目圧痕 玉縁凹面部:指頭痕 凹面側縁部:ケズリ(面取り)凹面		凹面:縦状痕
	17-2	7	瓦	丸瓦	厚さ:2.2	淡橙～淡黄橙色	φ～2mmの砂粒・赤色粒子含む	やや軟質	凸面:ヨヲキ後横ハヨコナデ 凹面:布目圧痕 凹面側縁部:ケズリ(面取り)凹面		凹面:縦状痕
5号溝	13-3	7	瓦	丸瓦	厚さ:(2.4)	灰～暗灰色	φ～2mmの砂粒僅かに含む	硬質	凸面:ヨヲキ後ヨコナデ 凹面:布目圧痕 凹面側縁部:ケズリ(面取り)凹面		凹面:縦状痕、工具ナデ痕
2号井戸	17-4	7	瓦	丸瓦	厚さ:1.9	灰白色	φ～3mmの砂粒中量含む	硬質	凸面:ヨヲキ後横ハいナデ 凹面:布目圧痕 凹面側縁部:ケズリ(面取り)凹面		
4号溝	17-5	7	瓦	平瓦	厚さ:1.8	灰白色	φ～2mmの砂粒多量に含む	硬質	凸面:ナデ 凸面:工具ナデ 広端面・側面:ケズリ		凸面:工具痕
5号溝	17-6	7	瓦	平瓦	厚さ:1.8	淡橙色	φ～3mmの砂粒多量に含む	硬質	凹面:丁寧な工具ナデ 凸面:工具ナデ 狭端部・ケズリ		凸面:工具痕
2号井戸	17-7	7	瓦	平瓦	厚さ:1.7	淡灰橙色	φ～2mmの砂粒少量含む	軟質	凹面:丁寧なナデ 凸面:工具ナデ 側面:ケズリ		凸面:工具痕
	17-8	7	瓦	平瓦	厚さ:2.0	淡灰白色	φ～2mmの砂粒多量に含む	やや硬質	凹面:ナデ 凸面:工具ナデ 広端面・側面:ケズリ		凸面:工具痕
2号井戸	18-1	7	鉄器	釘	長:5.5 厚:0.6 重:11.4g						
	18-2	7	鉄器	釘	長:5.3 厚:0.5～0.7 重:9.8g						
	18-3	7	鉄器	不明	長:14～3.8 厚:0.6 重:10.8g						

第２表　出土遺物観察表

出土遺構	掲図番号	図版番号	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調	胎土	情成	成形・調整	備考
1号溝	6-1	—	土師	甕	—	—	(7.8)	内外:浅黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	6-2	—	土師	甕	7.9	6.9	6.3	内外:淡橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	6-3	—	陶	擂鉢	—	—	(15.4)	内外:暗灰色	密、微細砂含む	硬質	内:ナデ後櫛目 外:ナデ	東本1単位
	6-4	7	石	石臼	(18.4)	—	—	—	滑石	—	内外:バイ状工具	外面スス付着
2号溝	6-5	—	瓦質	釜	(17.7)	—	—	内外:淡黒～黄灰色	細砂多く混じる	良	内外:ハケメ	
	6-6	—	瓦質	鉢	—	—	—	内外:灰黄褐～淡黒色	精良、細砂微かに含む	良	内:ハケ後ナデ 外:工具ナデ、ジザイスタンプ	
	6-7	—	青磁	椀	—	—	(6.4)	釉:淡緑色、透明	精良、植灰色	良好	内外:施釉 高台内:糸切り後削り	
	6-8	7	石	砥石	長:4.3	幅:4.25	厚:1.8	—	流文凝灰	—	砥面:砥度有	口縁部穿孔
3号溝	6-9	—	土師	甕	—	—	(5.2)	内外:淡橙色	精良	良	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	6-10	—	青磁	椀	—	—	(5.2)	釉:水色味帯びた緑色	精良、灰白～黒色	良好	内外:施釉 畳付け～高台内:露胎 見込み:掻潜状	
	6-11	—	陶	鉢	—	—	—	釉:黄～黄白色	精良	良好	内外:施釉	
4号溝	6-12	—	瓦質	鉢	—	—	—	内外:暗灰色	精良	良好	内外:ハケメ	
	6-13	—	土師	鉢	—	—	—	内:淡黒橙色 外:黒褐色	φ～1mm以下の細砂含む	良好	内:工具ナデ 外:ナデ 口:ヨコナデ	
	6-14	—	土師	坏	(10.1)	3.1	(4.7)	内外:淡茶褐色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
5号溝	6-1	5	土師	坏	(15.0)	2.6	(11.4)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部内面:ナデ 底部外面:糸切り後板状圧痕	
	6-2	—	土師	坏	(11.4)	2.8	(5.7)	内外:淡黄灰～暗灰色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	6-3	—	土師	皿	(6.0)	1.3	(3.8)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	6-4	—	陶	椀	(11.2)	—	—	釉:灰色	精良、淡灰色	良好	内外:施釉	
	6-5	—	青磁	椀	(16.6)	—	—	釉:茶緑色、透明	精良、灰色	良好	内外:施釉 外面:鎬連弁文	
	6-6	6	瓦質	鍋	(15.4)	2.5	(12.1)	内外:暗灰～黒褐色	細砂中量混じる	良好	内:平定ナデ 外:回転ナデ 鍔ヨ:指オサエ	
	6-7	6	瓦質	鍋蓋	(13.2)	16.8	(6.6)	内外:暗灰色	精良、φ～1mmの細砂含む	良	内:回転ナデ 外:ナデ、ハケ目、雲形文スタンプ	
	6-8	—	須	鉢	—	—	(12.8)	内外:灰白色	精良	やや軟質	内:ナメメ 外:ハケ後ナデ、閉オサエ 底部外面:糸切後ナデ	
	6-9	—	瓦質	鉢	—	—	—	内外:淡灰白色	精良	硬質	内外:ナデ 内:櫛目(4本)	
	6-10	—	土師	鍋	—	—	—	内外:赤褐色	φ～2mmの砂粒少量含む	良好	内外:ナデ 口外:ヨコナデ	
	6-11	6	土師	鍋	(43.4)	—	—	内外:淡橙～淡茶褐色	φ～3mmの砂粒少量含む	良好	内:ハケメ 外:ナデ 口外:ヨコナデ	内外スス付着
	6-12	6	土師	鍋	(47.8)	—	—	内外:淡橙色	φ～3mmの砂粒少量含む	良好	内:ハケメ 外:ナデ 口外:ヨコナデ	外面スス付着
6号溝	10-1	—	土師	甕	(6.9)	2.2	(3.9)	内外:淡黄橙色	精良	良	内外:回転ナデ 底部糸切り	
	10-2	—	土師	坏	(13.7)	2.8	(9.6)	内外:黄橙色	φ～1mmの細砂微かに含む	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	10-3	—	瓦質	釜	—	—	—	内外:淡灰褐色	φ～2mmの砂粒微かに含む	良好	内外:ハケメ	
	10-4	7	土師	紡錘	長:8.5	幅:3.7	厚:3.6	橙色	精良	良好	ケズリ調整	
7号溝	10-5	—	土師	甕	(8.0)	1.8	(5.6)	内外:淡橙色	精良	良	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	10-6	—	陶	鉢	—	—	—	釉:暗緑色	精良、褐色石	良好	内外:施釉	
1号土坑	12-1	—	土師	甕	(9.9)	1.7	(7.1)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	12-2	—	土師	甕	(11.9)	2.1	(8.8)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	12-3	6	須	鉢	(24.6)	8.35	(6.4)	内外:淡灰～暗灰色	密、精良	硬質	内外:強ヨコナデ 口外:指オサエ	
1号井戸	12-4	6	土	火鉢	長:19.0	幅:21.8	厚:1.9	表:暗褐色 裏:明橙色	粗土、スサ(麻)多量に混じる	良	表:ナデ	
2号井戸	13-1	—	土師	鍋	—	—	—	内外:淡茶褐色	細砂中量混じる	良好	内:ハケメ 外:ナデ 口外:ヨコナデ	内外スス付着
	13-2	5	青磁	椀	(12.1)	—	—	釉:翡翠色、透明	精良、淡灰白色	良好	内外:施釉	
	13-3	5	土師	鍋	(34.6)	—	—	内:淡橙色 外:灰褐色	精良、細砂微かに含む	良好	内外:ハケメ 口外:ヨコナデ	外面スス付着
	13-4	—	土師	鍋	(37.0)	—	—	内外:茶褐色	精良、φ～2mmの砂粒微かに含む	良	内:ハケメ 外:ハケ後ナデ 口外:ヨコナデ	内外スス付着
	13-5	5	土師	甕	(7.0)	1.1	(5.6)	内外:淡橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-6	6	土師	甕	(9.6)	1.3	(6.2)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内:ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-7	5	土師	甕	8.4	1.0	7.6	内外:淡橙色	精良	良好	内:不定ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-8	5	土師	甕	9.6	(1.4)	7.7	内外:橙色	精良	良	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	13-9	5	土師	甕	7.8	(1.3)	6.4	内外:淡黄橙色	精良	良好	内:不定ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-10	5	土師	甕	(8.8)	1.3	(7.2)	内外:淡橙色	精良	良好	内:不定ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-11	5	土師	甕	(8.3)	2.1	(5.8)	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	打明痕
	13-12	—	土師	甕	8.1	(1.2)	6.1	内外:淡橙色	精良	良好	内:不定ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-13	—	土師	坏	(10.6)	3.4	(5.6)		精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	13-14	—	土師	坏	(13.8)	—	—	内外:淡黄橙色	φ～1mmの細砂微かに含む	良好	内外:回転ナデ	
	13-15	5	土師	坏	11.4	(3.1)	7.2	内外:黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ、胴部張 底部外面:回転糸切り	
	13-16	—	土師	坏	(12.8)	3.1	(9.6)	内外:淡橙色	精良、細砂微かに含む	良好	内:不定ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-17	5	土師	坏	(12.5)	3.1	(6.8)	内外:淡橙色	砂粒微かに含む	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	13-18	5	土師	坏	12.3	(3.3)	7.9	内外:淡黄橙色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り	
	13-19	—	土師	坏	14.3	(3.2)	9.3	内外:淡黄橙色	精良、細砂微かに含む	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-20	5	土師	坏	(14.6)	2.9	(9.6)	内外:淡黄橙色	精良、砂粒微かに含む	良好	内:ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	13-21	—	青磁	子椀	(12.0)	—	—	釉:ホイヌ色緑色、透明	白色	良好	内外:施釉	
	13-22	—	陶	瓶	—	—	(12.6)	釉:オリーブ色	精良、植灰色	良好	内:回転ナデ 外:施釉	
	13-23	6	陶	壺	—	—	11.3	釉:白～黄緑色	灰白色	良好	内外:施釉、自然釉か？	
	13-24	—	陶	瓶	—	—	(13.8)	釉:褐釉	精良、淡黄灰色	良好	内外:施釉 底部:露胎	
	13-25	7	土	手焙	最大胴部径:(7.6)			内外:淡茶色	精良、細砂微かに含む	良好	内:ナデ 外:ナデ、クシリ(不明瞭)	
2号井戸下層	16-1	5	土師	坏	(12.0)	3.1	(9.7)	内外:淡茶褐色	精良	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	16-2	5	土師	坏	14.5	(3.0)	9.8	内外:淡橙色	精良、細砂微かに含む	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	16-3	5	土師	坏	15.7	(3.7)	10.9	内外:明橙色	φ～1mmの砂粒微かに含む	良好	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	16-4	5	土師	坏	(16.4)	2.7	(7.5)	内外:淡黄橙色	精良	良	内外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	不良品？
	16-5	—	土師	坏	—	—	(6.8)	内外:淡黄橙色	精良	良	内:ナデ 外:回転ナデ 底部外面:回転糸切り後板状圧痕	
	16-6	—	須	鉢	(15.6)	—	—	内外:暗灰色	φ～2mmの砂粒微かに含む	硬質	内外:ナデ	

寺小路6全景（北から）

寺小路6全景（真上から）

図版2

1号土坑・土層

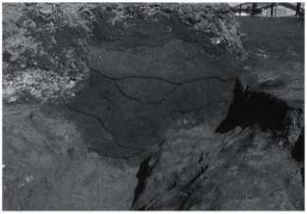
1号土坑・完掘

1号井戸・土層

1号井戸・完掘

2号井戸・土層

2号井戸・完掘



1号溝・北壁面土層

1号溝・ベルト①土層

1号溝・完掘

2号溝・土層

2号溝・北壁土層

2号溝・ベルト土層

3号溝・南壁土層

2・3号溝・全景

4号溝・南壁

4号溝・完掘

図版4

5号溝・南壁土層

5号溝・北壁土層

5号溝・完掘

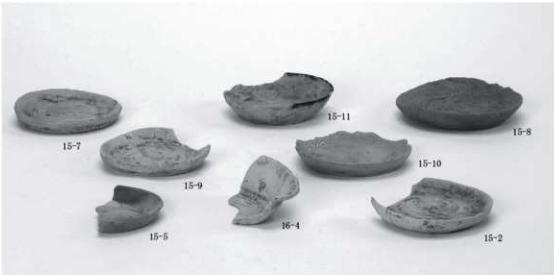
6号溝・南壁土層

6号溝・完掘

7号溝・全景

16-3
16-2
16-1
8-1

15-9
15-20
15-15
15-17
15-18


15-11
15-8
15-7
15-10
15-9
16-4
15-5
15-2

図版6

8-6

8-7

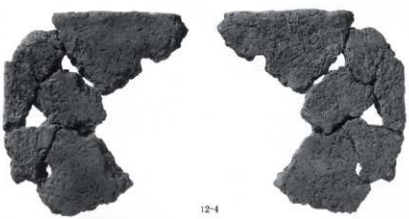
8-11

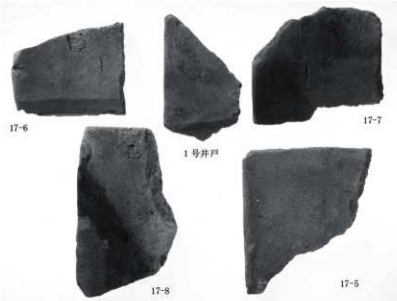
8-12

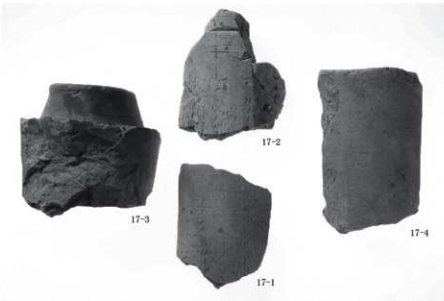
12-3

15-3

15-23


12-4


17-6
1号井戸
17-7
17-8
17-5


17-2
17-3
17-4
17-1

6-4
10-4
1号土坑
18-1
18-2
18-3
15-25
6-8

	報 告 書 抄 録
ふりがな	みつさわてらしゅうじいせき６
書名	三沢寺小路遺跡６
副書名	福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告
巻次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第２６３集
編著者名	坂井　貴志
編集機関	小郡市教育委員会　小郡市埋蔵文化財調査センター
所在位置	〒838-0106　福岡県小郡市三沢 5147-3　℡ 0942-75-7555
発行年月日	平成 24 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みつさわてらしゅうじ 三沢寺小路 いせき 遺跡６	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 みつさわ 三沢	40216		33° 24′ 43″	130° 33′ 30″	2010.11.12 ～ 2010.12.18	225 ㎡	消防格納庫 新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三沢寺小路 遺跡６	集落 寺社跡	中世	溝 土坑 井戸	土師器 瓦質土器 瓦	

三沢寺小路遺跡６は、三国丘陵から南東へ派生する低台地の縁辺部、標高 21.50 m付近に立地する。調査の結果、溝７条、井戸２基、土坑１基、ピットを検出した。遺物から、時期は概ね 13 世紀後半～14 世紀中頃にかけてのものと見られる。周辺は善風寺の想定地とされていることから、今回検出した溝は寺院敷地を区画するようなものである可能性も考えられる。

三沢寺小路遺跡６

小郡市埋蔵文化財調査報告書第 263 集
平成 24 年 3 月 31 日
発行　小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255-1
出版　片山印刷有限会社
福岡県小郡市祇園１丁目 8-15